

2026年度
編入学試験問題

専 門 科 目

奈 良 大 学

文学部 文化財学科

【専門科目】 次の4問から1問を選択し、答えなさい。

1. 日本の遺跡のうち重要なものを1つあげ、考古学的研究の成果をふまえて、その遺跡が持つ歴史的意義について述べよ。
2. 文化財研究における保存科学の役割・特質・課題などについて、具体的に文化財を1つ取り上げて論じよ。
3. 日本の平安時代から江戸時代までの美術作品のうち重要なものを1つあげ、特徴を説明し、その作品が持つ美術史上の意義について述べよ。
4. 木簡についての史料学的研究の成果を具体的に示し、木簡が持つ文化財としての特長を述べよ。

2026 年度入試 編入学試験（問題、出題意図、評価方法、解答例）（文化財学科）

【専門科目】 次の 4 問から 1 問を選択し、答えなさい。

1. 日本の遺跡のうち重要なものを 1 つあげ、考古学的研究の成果をふまえて、その遺跡が持つ歴史的意義について述べよ。

【出題意図】

解答者の考古学研究に関する知識知識を問う。

【解答例】

日本考古学の学史上重要な遺跡として、青森県青森市に所在する三内丸山遺跡を挙げる。三内丸山遺跡は縄文時代前期末から中期にかけて営まれた大規模集落遺跡であり、1992 年以降の発掘調査により多数の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、長大な建物跡、貯蔵穴、土坑墓などが確認された。とくに巨大な柱穴をもつ大型掘立柱建物跡や多数の大型竪穴住居の存在は、縄文時代の集落が従来想定されていたよりもはるかに大規模で計画的であったことを示す。また、多様な動植物遺存体が出土したことにより、縄文時代の生業活動の実態も具体的に明らかとなった。さらにヒスイや黒曜石など遠隔地産の石材が確認され、広域的な交流・交易の存在も示されている。これらの成果は、縄文社会を単純な狩猟採集社会とみなしてきた従来の理解を大きく改め、縄文文化の社会構造や定住性を再評価する契機となった点で、日本考古学の学史において極めて重要な意義をもつ遺跡である。

2. 文化財研究における保存科学の役割・特質・課題などについて、具体的に文化財を 1 つ取り上げて論じよ。

【出題意図】

保存科学の基本的な理念や知識について、その背景も含めて問うもの。

【解答例（概要）】

まず保存科学がどのような学問であるかの説明を要する。保存科学は美術、歴史、考古資料など文化財を対象にして、理系の知識や技術によって調査研究、保存を行うものである。役割と特質については、文化財の調査研究には、肉眼による観察など人文科学的な手法が基本になるが、それに加えて理化学機器を用いた調査を行うことで、得られる情報の種類や量が増え、新たな事実が明らかとなるといった点が必要となる。課題に関しては、一つは理化学的調査の中には、鉛同位体比分析や放射性炭素を使った年代測定など、資料の一部を採取して詳細なデータを得る手法が含まれており、その点を踏まえて、どのような情報が必要なのか、どこまでの調査研究を行うべきかを考える必要があるといったことが挙げられる。また文化財の分野や種類、数に対して、保存科学を専門とする研究者や機関が少ない点も課題といえるであろう。

保存科学を用いた文化財研究には産地、年代、材質、構造・技法、保存・保管など様々なものがあり、その中から具体例を取り上げることとなる。例えば絵画における X 線や赤外線を使った下地の調査、蛍光 X 線分析などを用いた色材の調査、仏像の X 線 CT による構造、内部状況の調査、考古資料に対する材質や構造調査、あるいは年代測定、産地同定（推定）などの事例の説明を求める。

3. 日本の平安時代から江戸時代までの美術作品のうち重要なものを1 つあげ、特徴を説明し、その作品が持つ美術史上の意義について述べよ。

【出題意図】

解答者の美術資料と美術史研究に関する知識を問う。

【解答例】

和歌山県立博物館が所蔵する日光社参詣曼荼羅は縦 148.7 cm、横 117.8 cmを計るやや厚手の紙に鮮やかな泥絵の具で高野山麓の日光社の景観を描く。近世まで日光社の祭祀に深く関わった小松家に伝来した。現状では掛幅装となるが、もともとは未使用時には折りたたんでいたことが痕跡からわかり、本来は縦八つ折、横四つ折にし、折りたたんだ大きさはおよそ縦 32 cm、横 20 cmほどとなる。使用頻度は高かったようで折り目の角付近で欠損部がみられる。

画面中央に社殿三棟を描き、その向かって右に正面四間の堂舎、左に正面三間の堂舎を配置し、これらはすべて檜皮葺として描いている。この五棟は瑞籬で区画し、中央に鳥居を配置する。瑞垣の外には、左方より多宝塔を描き、その前方に板葺の堂舎、鳥居、鐘楼、茅葺建物を描く。さらにその下に、左側に堂舎と小祠を、中央に茅葺の建物六棟を描き、最下部に川を描いている。

描かれている総数 41 名の人物は、社頭では僧侶と神人、瑞籬中央の鳥居の中に巫女を描き、瑞垣の外にも僧侶が散見されるほか、宗教者や巡礼者、芸能者など聖俗の参拝者を描いて賑わいを表している。上部には三つの峯が描かれ、各々雲で区画されて、象徴的な印象を強めている。画面上部左右両端には、各峯の注記と見られる墨消し部分があるが、下部の文字は赤外線撮影でも読み取れず不明である。

描かれている瑞籬内の建物の正面間口の合計が 12 であることなどから、かつて熊野十二所権現を祀るとする見解が有力であったが、本図の料紙を精密に確認すると、瑞籬内の左側の建物は本来右下に描かれていたものが切断され現位置に貼られていることが分かり、本来は拝殿であったと判断される。祭神名についてはなお検討が必要である。

形式化の見られない伸びやかで自由な人物表現が、清水寺参詣曼荼羅や長命寺参詣曼荼羅など 16 世紀に制作された参詣曼荼羅に通じ、本図の制作時期も室町時代後期と捉えられる。参詣曼荼羅を用いた勧進が地方社寺でも本格的に行われていたことを示す重要資料といえる。

個人の所有として伝来したが、その永続的な保存を図るため、和歌山県立博物館に寄託されたのち、寄贈された。勧進のために製作されたこと、日光社祭祀に関わった家で継承されたことが把握され、地域史理解の上での重要性から県指定文化財への指定とともに安定的な保管と継承が図られたものであり、調査、研究と保存を一連のものとして捉えて継承する文化財学の意義を強くうかがえるといえる。

4. 木簡についての史料学的研究の成果を具体的に示し、木簡が持つ文化財としての特長を述べよ。

具体例としては、以下の事例などがある。

①行政区画の郡が施行された時期について、かつては『日本書紀』に書かれているように646年の大化改新詔による施行とする説と、金石文などを根拠としてこれに異を唱え、701年の大宝令の施行によるとする郡評論争があったが、飛鳥・藤原京などで大量の木簡が出土したことで、郡への改定が大宝令の施行によることが確定された。

②大宝令に基づく国郡里制が国郡郷里制に改定された時期について、かつては『出雲国風土記』に記された霊亀元年(715)年が通説であったが、平城宮・平城京木簡をはじめとして、当該期の木簡の出土数が増えたことで、霊亀3年(養老元年)が正しいことが確認された。これにより、写本として伝わる『出雲国風土記』には誤りがあることが明らかとなった。

これらの事例から分かるように、編纂物が意図的な虚偽や、書写の過程での誤謬を含む場合があるのに対して、用途が済んだ直後に溝や土中に廃棄されたものが検出される木簡は一次史料であり、後世の改ざんなどが入る余地がないという特徴がある。1点の木簡に記される情報は限定的で、そのみで歴史を復元することは難しいが、情報量で勝る編纂物の叙述の史実性を検討するために、重要な文化財である。

○具体例については、どちらか一方、或いは異なる事例であっても良い。一次史料と編纂物との違いを説明できているかが重要である。

2026年度
編入学試験問題

英 語

奈 良 大 学

文学部 文化財学科

問題

下の文章は埼玉県稲荷山古墳出土鉄剣に関するものである。日本語に訳しなさい。

In 1978, archaeologists conducted conservation treatments on metal artifacts excavated from the Inariyama Burial Mound to keep them from rusting. An x-ray taken at this time revealed that 115 gold characters were engraved on the sword, with 57 characters on the front and 58 characters on the back. This discovery led to the designation of all the artifacts excavated from the Inariyama Burial Mound's burial chamber, including this sword, as national treasures in 1983. The 115 characters name Wowake as the sword's creator, record eight generations of his ancestors, and explain that Wowake made the sword to commemorate the great king he served and his family's many years of contributions to the royal family's rule over much of Japan.

This sword, unearthed in 1968, is the most important historical artifact housed in the Museum of the Sakitama Ancient Burial Mounds. The 115 characters engraved on the sword show the lineage of an ancient powerful family, providing us with valuable clues in understanding the formation of Japan.

出典：国宝 武蔵埼玉稲荷山古墳出土品 金錯銘鉄剣（埼玉県立さきたま史跡の博物館
令和6年4月改訂）

2026 年度 編入学試験（解答例 英語）（文化財学科）

1978 年に、考古学者たちは稲荷山古墳から出土した金属器を錆化から保護するための保存修理を企画した。その際に撮影された X 線フィルムが鉄剣に象嵌された表面 57 字、裏面 58 字、計 115 字を明らかにした。この発見が、稲荷山古墳の礫槨から出土したすべての副葬品が 1983 年に国宝となる決定につながった。115 字の内容は、鉄剣を作らせたヲワケの名、彼の 8 代の系譜、ヲワケが仕えた大王、彼ら一族が長年にわたって大王家の列島支配に貢献したことなどである。

1968 年に出土したこの鉄剣は、さきたま史跡の博物館に収蔵されている最も重要な考古資料である。鉄剣に象嵌された 115 字は古代豪族の系譜を示し、日本の成り立ちを理解する重要な手がかりを我々に与えてくれる。